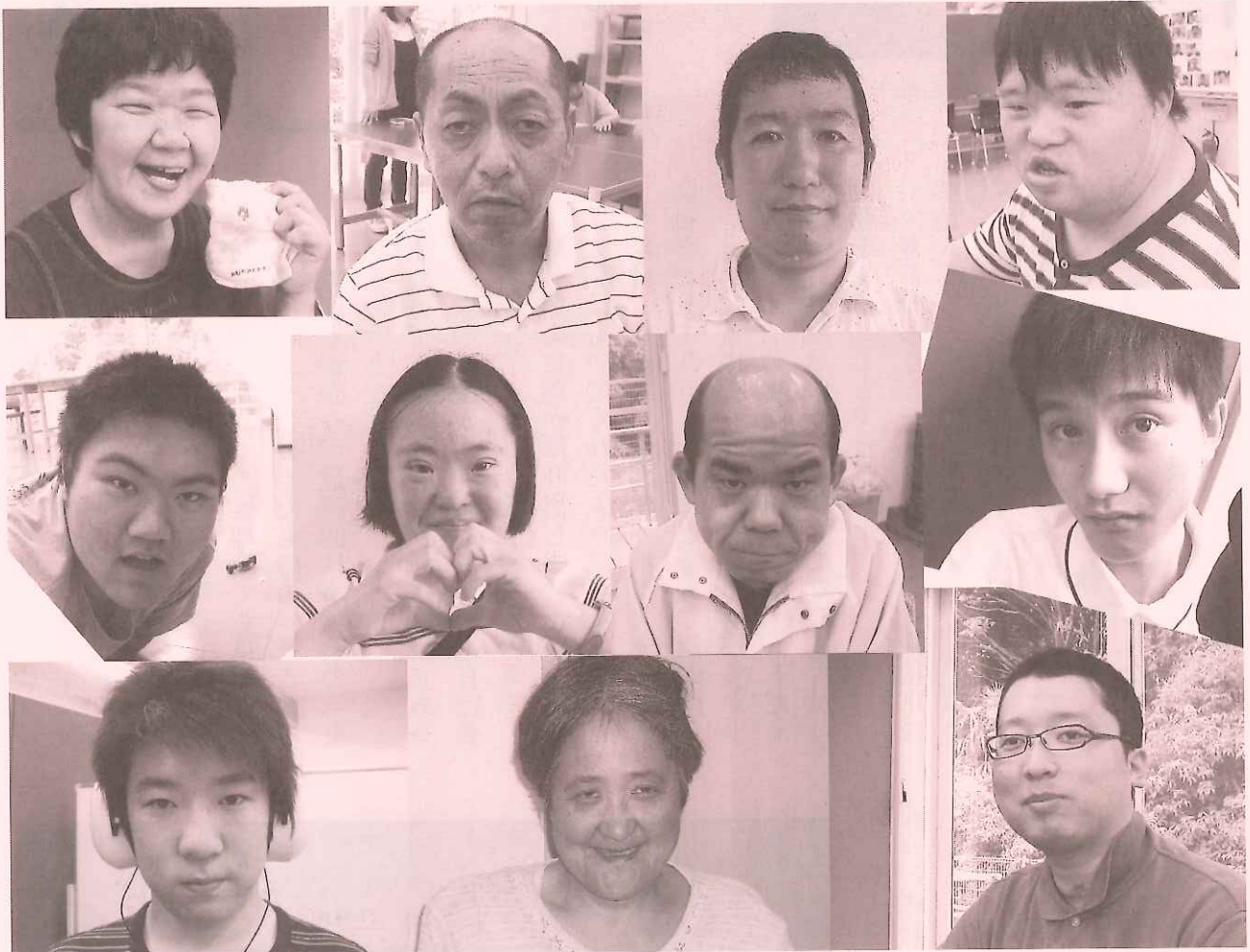


こぶし だより

働く障害者も
SSKW
働けるんだオレたちも



「2010～新たにこぶしの会にくわったなかまたち part 2～」

CONTENTS

- ① トピックス(1) 2P～3P
- ② 特集「ニューこぶし作業所開所式」 4P～5P
- ③ トピックス(2) 6P
- ③ 《Pick up》第3弾 就労・生活支援部 7P
- ④ アドレス・編集後記 8P

No. 342

2010
8

トピックス

こぶしの会 それぞれの現場から

Topics

セルフ・みらい

Goto 東武動物公園

去る六月一八日(金)、セルフ・みらいでは恒例の親睦旅行に行ってきました。親睦旅行に向け、まず、なかまの親睦旅行実行委員会を発足させ、旅行に向けた取り組みをしてきましたが、実行委員に立候補するなかまが定員よりも多く、その段階で人選に悩まされました。

実行委員の仕事としては、行き先の決定は



ゴーカートでLet's go!!

もちろんのこと、行き先決定に向けたアンケートの作成や集約、車内のレクリエーションの内容決め、しおり作り、下見など仕事の合間に委員会を開き、検討を重ねてきました。一番時間がかかった行き先決定では、実行委員サイドでも四つの候補地で意見が分かれ、最終的に二つに絞ったものの、そこからさらに時間がかかり、最終的に埼玉県「東武動物公園」となりました。

関東地方で梅雨入り宣言された直後であったので天気心配がありました。当日は曇りに薄日が差し、とても蒸し暑い天気でした。帰り間に雨が降り出しましたが、なんとか天気はもってくれたようでした。

今年、なかま・保護者・ボランティア・職員合わせて四五名の参加となり、雨が降らないうちに遊園地を楽しむグループが多かったのですが、動物園側からの入場ゲートだったので、遊園地にたどり着くまでの道すがら動物を見ることもできました。

「絶叫マシンに乗りたい!」「観覧車に乗りたい!」「ホワイトタイガーが見たい!」と限られた時間の中で遊園地と動物園どちらもまわるのは困難であり、また、敷地がとても広く、遊園地にしても動物園にしても移動距離が長く、なお時間に追われながらなってしまうように感じました。

なかまが目を輝かせて乗り物を見ていた



東武動物公園にて

り、嬉しそうに動物を見ている姿を見ると、もつと時間があればなあ...と思いました。

にぎやかだった行ききの車内とはうらはらに、帰りの車内では疲れて熟睡しているなかまがほとんどでした。「気づいたらいつの間にかみらいに着いていた」というなかまも多かったのではないだろうか。高速を走りながら強くなった雨足も、みらいに着くころに軽くなりました。

暑さと広さに足どりが重くなりながらも、大きなトラブルもなく、また、初めて参加された方も助け合いながら無事に終わらせることができました。参加された皆様、本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございます。(セルプ・みらい 森島)

生産活動部

弁当プロジェクト展開中!

社会福祉法人こぶしの会は今年度から生産活動部が立ち上がり、専門職員の配置や専門家の助言をいただきながら組織を整え、法人全体の生産活動を一体的に見たり、法人全体の動きにしていくこととなりました。いくつかのプロジェクトを立ち上げて横断的に進めています。その一つに弁当プロジェクトがあります。

弁当プロジェクトは二月二三日に第一回会合を開催し、各事業所での現状把握を行い、販売価格、材料、メニュー、仕入先の検討を行い、合理化していくことを確認しました。まずは、法人内で一定の評価を得ている「みらい弁当」を参考に、レシピの掘り起こしを行いながら各事業所の給食・弁当のメニューを四月から統一したもので行うこととしました。

また、弁当事業を行うに当たり、利用者と作業をするのが初めての方がいたこともあり、技術向上のために事業所訪問(みらい、こぶし)を行い、各事業所で抱えている問題を外部から見つ指摘し、改善方法を出し合うなどの研修を進めてきました。

さて、第2けやき作業所では、当初、独自で販売先を開拓しながら弁当事業・給食業務を行うこととしていましたが、けやき作業所で受け持っていたルートを六月一四日から弁当事業として引き継ぎ、七月一日から本格的に事業を開始しました。けやき作業所で販売



真剣なまなざしでお弁当の盛りつけをしています!



支援員に見守られながら、丁寧な包丁さばき

していた弁当価格は四〇〇円でしたので、五〇〇円に値上げした弁当を買ってくださるか不安があったのですが、おかげさまで変わらずご利用いただいています。

また、弁当事業にかかわっている利用者も責任感が出てきて、休みがちであった〇さんがほとんど休まずに「疲れた」と言いながらも生き生きとして作業をしています。

これから、弁当事業は芳賀地区、宇都宮地区、真岡地区を中心に販路拡大を行っていく、利用者の給料を保証できるようにしていきたいと考えています。

「弁当食べて社会貢献!」とは、ある施設長の考えたキャッチコピーですが、皆様の周りで社会貢献をしたい方がいましたら、こぶし、みらい、第2けやき作業所までご連絡ください。すぐに弁当をお持ちいたします。

(第2けやき作業所 東岡)

特集 ニューこぶし作業所開所式

～皆さんを歓迎します。
ようこそ宇都宮市雀宮・茂原地区へ～



Newこぶし作業所 in 宇都宮市茂原

ニューこぶし作業所の開所式典が平成22年7月24日(土)に来賓、関係各位、家族会、なかま(利用者)約150人が集まり、新作業所を会場として盛大に開催されました。ニューこぶし作業所は、本年4月1日に宇都宮市柳田町から34名のなかまが新築施設に移転し、多くの機能をもった作業所にパワーアップしたところです。しかし、なかまも職員も落ちつくまで開所式は待ってもらおうこととし、また、新しく作業の柱となる「パン製造・販売班」「弁当製造・販売班」が軌道にのり、販売活動が本格化したあと、パン・弁当の試食会も兼ねた立食パーティー形式で、なかま・家族会、参加者みんなで祝う会として企画しようと考えました。開所式のコンセプトも、①地元の関係者・関係団体とのネットワークづくり、地元へのお披露目
②なかま・家族会・職員・関係者・法人全体としてみんなで新築完成を祝うもの
としました。

開所式当日は梅雨明けの快晴の中、多くの方々に訪れていただきました。会場の関係や駐車場の関係で近くの公共施設からピストン送迎となりましたが、10時30分から仁平副所長の司会進行のもと、藤田理事長のあいさつに続き、来賓として、谷博之こぶし作業所後援会長様、川中子宇都宮市障がい福祉課長(宇都宮市長代理)様、千葉雀宮地区自治会連合会副会長様、雀宮ボランティアネットワーク代表松本様、下請け作業で30年にわたりお世話になってきた地元雀宮の企業・宇都宮機器(株)堀江取締役生産管理部長様の5人の方からごあいさつをいただきました。

特に印象的だったのは、地元自治会の千葉副会長様や松本様のあいさつでした。

「こぶし作業所の皆さん、雀宮・茂原地区へようこそ。大歓迎します」「雀宮地区の福祉の拠点・核として、利用者はもとより職員1人ひとりが輝き、障がい者福祉サービスの先駆的・創造的な施設として宇都宮市、栃木県に、また、全国に発信して欲しい。」などなど、期待とともに大きなエールをいただきました。そのあと、小幡こぶし作業所建設委員会事務局長より新築・移転の経過報告があり、なかまを代表して自治会長の佐藤秀子さんからのあいさつで第1部の終了となりました。

第2部は、谷博之こぶし作業所後援会長様のウーロン茶での乾杯のあと、パン班・弁当班・下請け班・キッチンセルブの4つの作業班のなかまがそれぞれマイクの前に立ち、代表者からこれまでの経過と決意が述べられ、参加者からは大きな拍手が送られました。このあと、施設長あいさつと職員紹介、こぶし作業所家族会会長の石川様のあいさつがあり、自由懇親となりましたが、テーブルの前にはオーブン形式でのパンや弁当の料理がおいしそうに並べられ、参加者はなかまの作ったパン・弁当に舌鼓をうち、3カ月でこれほど腕が上ったことに感嘆していました。

また、休息交流コーナーでは、パン販売コーナーが設けられ、多くの参加者に出来たて・焼きたてのパンを購入していただきました。この日は作業所の開所日ということもあり、なかまの送迎もあるため、13時少し前に高橋常務のお礼と閉会のあいさつで開所式は幕を閉じましたが、帰りにはなかまの作ったラスクが参加者に記念品としてプレゼントされました。

(こぶし作業所長 増田 俊雄)



皆様からエールをいただきました(写真中央:石川家族会会長様)“ありがとう”“がんばります”

トピックス

「ぶし」の会 それぞれの現場から

Topics

チャレンジセンター

就労移行支援事業所等

ネットワーク会議開催!

平成二三年七月二十九日(木) 一四時より、平成二二年度第一回県東圏域就労移行支援事業所等ネットワーク会議(以下「ネットワーク会議」)が県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」にて開催されました。

この「ネットワーク会議」は、就労移行支援事業を行っている事業所をはじめ、就労継続事業(B型)、福祉作業所、ハローワーク真岡、栃木県立益子特別支援学校、栃木県しょうがい者雇用促進事業委託業者「株式会社フジスタッフ」及び「チャレンジセンター」等の関係機関のネットワークを構築し、障がいのある方々の一般企業での就労を促進させるための会議です。

今回の「ネットワーク会議」は、右記の参加団体より二〇名が参加し、二部構成で行われました。



ネットワーク会議の様子(チャレンジセンターにて)

第一部は「就労支援員なら知って欲しい! 障がい者雇用・支援制度」基礎編」と題し、ハローワーク真岡の岩崎明広上席職業指導官より「障がい者職業紹介状況」及び「障がい者雇用・支援制度」についての講話が行われました。「障がい者雇用・支援制度」については、その種類や仕組み等の説明があり、その後、質疑応答が行われました。

第二部は「みんなで作ろう! 就労支援システム」仕組みづくり」と題し、和田センター長より「就労支援システム案」として、就職準備段階から定着支援までの福祉施設と「チャレンジセンター」の協働による取り組み

みの提案がされました。その中で「チャレンジセンター」のSST(社会生活技能訓練)の取り組みについて、河原生活支援ワーカーより実施状況報告が行われました。

その後、各事業所から今後の就労支援等についての意見が述べられました。その中には「どうすれば当事者本人の就労意識のレベルアップができるか?」また、「本人に就労意欲はあるのだが、通勤手段が限られてしまうので、就職に結びつかない」等、多くの具体的な問題が提示されました。「就労意識のレベルアップ」に関しては、古谷主任就労支援ワーカーより「職場見学会を今年度は既に一回行っており、これからも各事業所と連携し行っていきたい。そうすることにより、一般企業で働くことのイメージを理解していただければと思っています」との報告がありました。

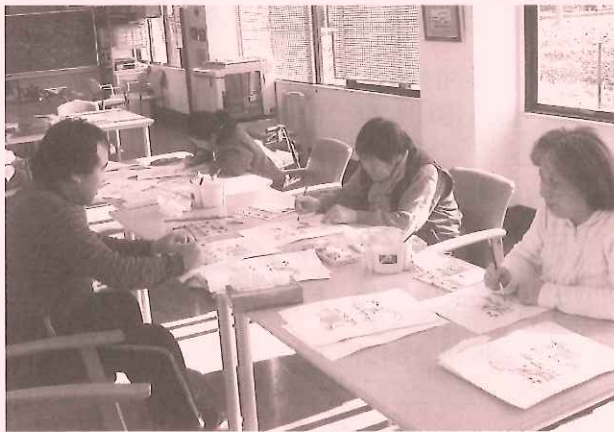
これから私たちは、この「ネットワーク会議」で話し合われた事柄をどう実践に活かしていくか、また、会議だけではなくこのネットワークをどれだけ有効活用するかによって、障がいのある方々の一般企業への就職の道が開けるかがかかっており、責任の重さを改めて痛感しました。

(チャレンジセンター 小林)

ぴっくあっぷ PickUP

第3弾 就労・生活支援部の役割

こぶしの会設立理念の一つに、「どんなに障がいが重くても働くことを通して豊かに発達する」というものがあります。これは、障害のあるなしにかかわらず、人間が豊かに発達していくことに「働くこと」の意味や役割がとて大切であり、そのことを実現させるためにこぶし作業所があるのだというものです。こぶしの会の歴史(無認可時代も含め)は、その「働くこと」を中心に据えた取り組みの歴史でもあります。今年度設置された「就労・生活支援部」は、「就労・生活支援課」と「活動支援課」の二つの課から成り立っています。「就労・生活支援課」は、昨年度の就労担当者会議で、「活動支援課」は、日中活動支援担



2011カレンダー製作中(けやき作業所生活介護班)

当者会議の内容を引き継いでいます。今年度は、より事業の中で「就労・働く」ことを活動の中心にしっかりと据えて取り組み、「労働が人としての豊かさの可能性を広げ、喜びや生きがいを生み出すものであること」を確認し、利用者が生活や活動の主人公となる実践を豊かに深く追求していくことを目標にスタートしました。

具体的には「就労・生活支援課」は、今年の前半期、主に一般就労に向けた「就労移行支援事業」での取り組みを中心に、就労支援のプログラムや個別支援計画の検討、就業・生活支援センター(チャレンジセン

ター)と連携したSST(ソーシャルスキルズトレーニング)の実施や学習会、また、ケース検討をチャレンジセンターが各事業所の会議に出席し共に検討するという連携の中で深めてきています。しかし、はじめに書きましたように、「働く」ことは一般就労だけではありません。自主製品作り(パンや弁当、手作り品)、下請け作業等多様な「働く」が日々取り組まれています。後半期は、自治会活動や働く集団づくりなどを含めた、「働く」ことへの支援についても検討していきたいと思

います。「活動支援課」は、障害の重い利用者(ユーザー)がこれまでに培ってきた「働く」を大事にしつつ、その他のプログラムと合わせた日中の活動、自称「働く生活介護事業」に焦点を当て、前半期は昨年度からの継続課題である、「支援の手引書」の作成と各事業所の取り組みを報告・交流することをやってきました。

後半期は、生活介護事業所全部に看護師が配置され、理学療法士の導入も予定しています。専門職員と共通・共同・連携した取り組みを明らかにしながら、「重い障がいがあっても、生き生きとした活動・生活」の実現のための支援を波及していきたいと思

います。新築移転したこぶし作業所で、県東ライフサポートセンターで、けやき作業所で、第2けやき作業所で、セルプ・みらいで、生き生きと活動している利用者の姿があります。本

当は利用者と共に喜び、共感し合いたいと願いつつ、多忙さもあって、その姿に気づかず感動できず戸惑う支援員がいます。利用者(ユーザー)を丸ごととらえ、利用者も職員も共に成長し合えるそんなこぶしの会の実践がまた一歩前進できる

よう「就労・生活支援部」としての役割を果たしていきたいと思

います。(就労・生活支援部 鈴木順子)

社会福祉法人
こぶしの会

- こぶし作業所 ☎321-0126 栃木県宇都宮市茂原町837-1
 ・就労移行支援事業 TEL 028 (653) 1020 FAX 028 (688) 1121
 ・就労継続支援B型事業 E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
 ・生活介護事業
 - 障がい者生活支援センター こぶし ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401
 ・在宅障害(児)者の相談・支援 TEL 028 (613) 5703 FAX 028 (666) 6128
 E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
 - こぶしのときわ荘 ☎321-0139 栃木県宇都宮市若松原2-6-8
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (653) 1581
 - く る み ☎321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野2867-3
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (664) 0435
 - けやき作業所 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244
 ・就労継続支援B型事業 TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789
 ・生活介護事業 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
 ・日中一時支援事業
 - 第2けやき作業所 ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
 ・就労移行支援事業 TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
 ・就労継続支援B型事業 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
 - 県東ライフサポートセンター ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
 「ほっとCHA」 TEL 090 (7820) 9165
 ・地域活動支援センター
 - 県東ライフサポートセンター「真岡」 ☎321-4305 栃木県真岡市荒町3-9-5
 ・就労移行支援事業 TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (85) 8055
 ・就労継続支援B型事業
 - ホームひまわり ☎321-3321 栃木県芳賀郡芳賀町大字下高根沢字下原3932-79
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (678) 3592
 - けやきハイツ ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井178
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (677) 2879
 - 第2けやきホーム ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井1024-1
 ・精神障害者グループホーム TEL 028 (677) 0790
 - コーポ 峰 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井775-2
 ・知的障害者ケアホーム
 - セルプ・みらい ☎321-4363 栃木県真岡市亀山1043-23
 ・就労移行支援事業 TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177
 ・就労継続支援B型事業 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
 ・生活介護事業
 - ぼ て っ と ☎321-4364 栃木県真岡市長田1-12-5
 ・知的障害者グループホーム TEL 0285 (80) 1227
 - 芳賀地区障害児者相談支援センター ☎321-4305 栃木県真岡市荒町110-1 市総合福祉保健センター内
 ・在宅障害(児)者の相談・支援 TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
 - 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」 ☎321-4305 栃木県真岡市荒町111-1
 ・障害者の就業相談・支援 TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452
 E-mail p-cc-star@ec3.technowave.ne.jp
-
- 法人本部 ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401

・総務・企画部	TEL 028 (613) 3707	FAX 028 (666) 6128	E-mail soumukikaku@kobusi.or.jp
・就労・生活支援部	TEL 028 (613) 3707	FAX 028 (666) 6128	E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp
・生産活動部	TEL 028 (666) 0439	FAX 028 (666) 6128	E-mail skb@kobusi.or.jp
・居住生活支援部	TEL 028 (666) 0418	FAX 028 (666) 6128	E-mail kyozeuu@kobusi.or.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください (閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

編集後記

今年度よりこぶしの会全体の組織改革に伴って大幅な人事異動があり、私も事務員から支援員として勤務し、早半年が経とうとしています。今までは書類の上でしか知り得なかったことが実際の現場に入り、その大きな違いに驚き、また、利用者の人たちと直接接することによって人を尊重することの大切さ、助け合いの気持ちをもつことの必要性を改めて考える良いきっかけとなった気がします。まだまだ私も人として未熟な部分も多いため、仕事を通しながら少しでも成長できるよう努力していきたいです。 (大塚)

編集委員

大塚 秋穂 小林 勇次 菊地 豊 星野 早苗 廣本 佳奈子 森島 知代

発行所 郵便番号 一五七〇〇三

東京都世田谷区砧六―二六―二一
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円